

特 102

邦文ファントツ通信

ゴミの過去・現在・将来

環境問題の原資料

第三十九号

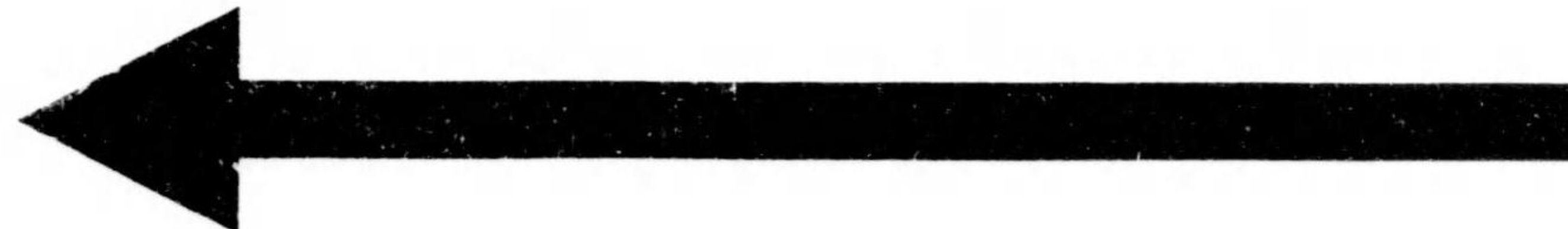
304



邦文ファントツ通信

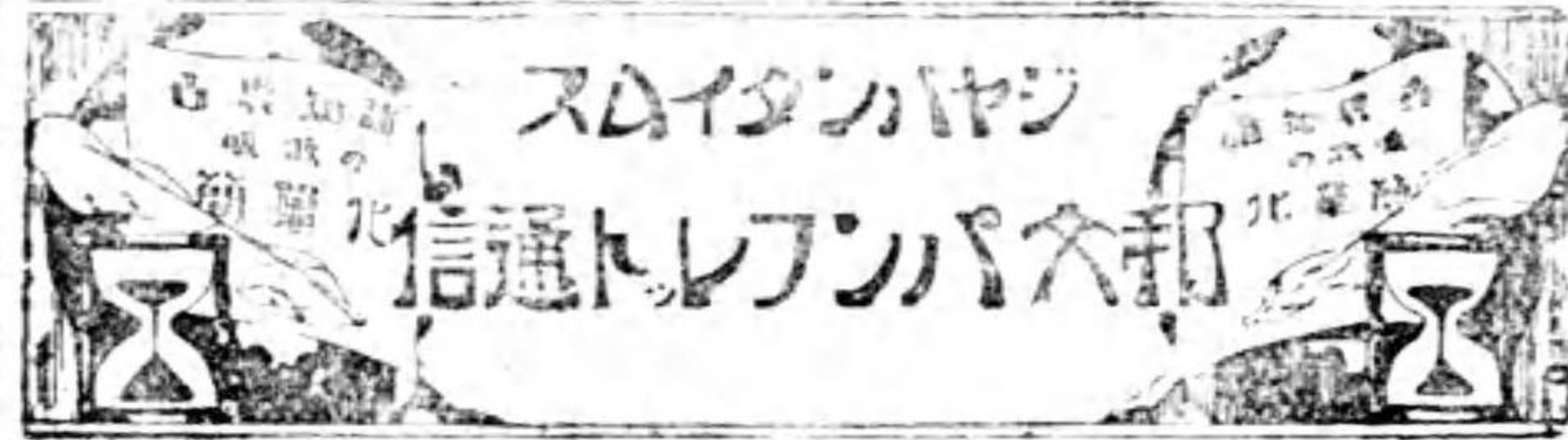


始





特102  
304



筆執氏名匿

ゴムの過去・現在及び将来

国際的商品原料ゴム

— 最新の研究 —

第三十九册

大正十五年三月十六日

社スミダカンパニ

邦文パフンツレト通信部版

ジヤパン  
タイムズ 邦文パフレット通信

時代は急速に進展し、世界は日々に新たなる歴史を創る、世界の大勢に通ずるは新時代に優勝する必須条件。

◆ 煩忙なる現代生活は教養ある人士にさへ海外新聞雑誌を大観する暇を與へず、世界知識吸収の簡單化最も急を告ぐる所以。

◆ 「世界知識吸収の簡單化」此の使命を帯びて吾が「ジヤパンタイムズ邦文パフレット通信」生まる、世界大勢の姿鏡は正に是れ。

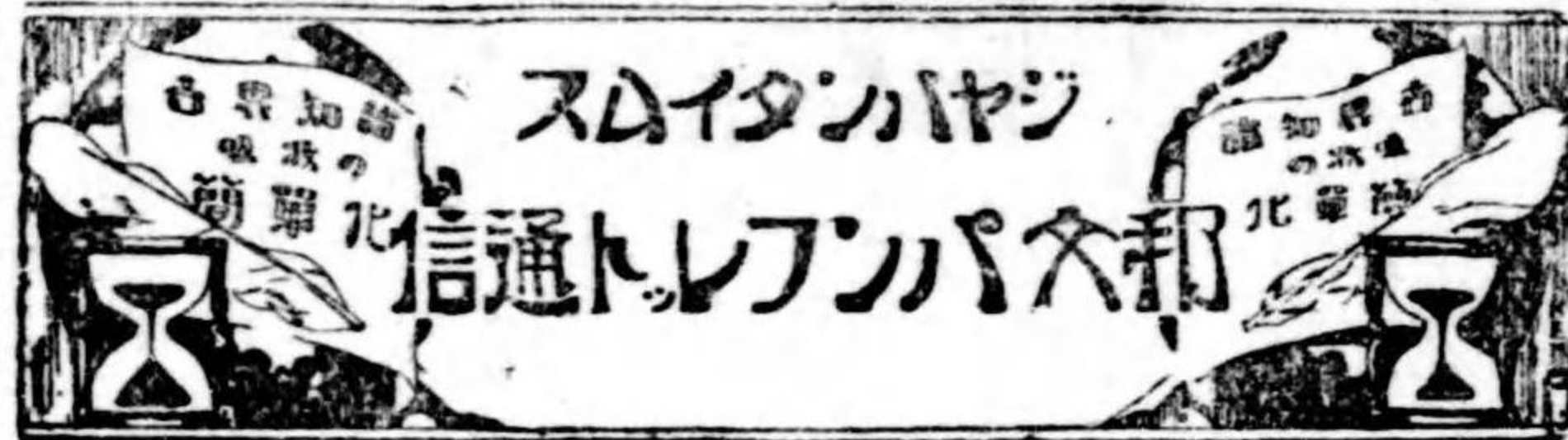
◆ 世界各國の新聞雑誌その他の刊行物より、最も緊切なる題目を選び之れを一流の反譯者が正確にして平易明快なる日本文に反譯し解説し又内外重要問題に對する専門家の權威ある研究を報道す。

◆ 「肩の凝らない」清新にして輕快なるパフレットの容器に「充實せる實利」の美味を盛る。車上の小閑、以て時代の大勢を窺ふべし。

◆ 世界は動き、世相は移る、パフレット通信の在る處、勝利あり。



特102  
304



筆 執 氏 名 匿

ゴムの過去・現在及び将来

国際的商品原料ゴム

—— 最新の研究 ——

第 三 十 九 冊

大正十五年三月十六日

社 ス ム イ タ ム ヤ ジ

邦 文 パ ン フ レ ッ ト 通 信 部 版

ジヤパン  
タイムス 邦文パンフレット通信

時代は急速に進展し、世界は日々に新たなる歴史を創る、世界の大事に通ずるは新時代に優勝する必須条件。

煩忙なる現代生活は教養ある人士にさへ海外新聞雑誌を大観する暇を與へず、世界知識吸収の簡單化最も急を告ぐる所以。

「世界知識吸収の簡單化」此の使命を帯びて吾が「ジヤパンタイムス邦文パンフレット通信」生まる、世界大事の姿鏡は正に是れ。

世界各國の新聞雑誌その他の刊行物より、最も緊切なる題目を選び之れを一流の反譯者が正確にして平易明快なる日本文に反譯し解説し又内外重要問題に對する専門家の權威ある研究を報道す。

「肩の凝らない」清新にして輕快なるパンフレットの容器に「充實せる實利」の美味を盛る。車上の小閑、以て時代の大事を窺ふべし。

世界は動き、世相は移る、パンフレット通信の在る處、勝利あり。



### 編者より讀者へ

最近東京市は經費十五萬圓を支出して、代表的實業家四名を南洋に派遣し、數ヶ月の豫定を以て眞の研究視察を行はせるといふ、其の主たる目的がゴム栽培事業の視察に在るは言ふまでもない。而してゴムは去る二月二十六日以来株式取引所の長期取引株の對象となつた。實際、原料ゴムの市場に於ける勢力は日々に増大し、國際的商品としての重要性を加へてゐる。無理押し付けに買はされたゴム株が二圓五十錢から百圓以上に暴騰して、ゴム株を持て餘してゐた中村市長の懐ろが俄かに膨れ出したといふやうな挿話まで社交界の話題に上つてゐる事ほど左様にゴムが問題視されて來た。

現在、事實上原料ゴムを獨占してゐるのは英國である。之れに向つて米國が垂涎措かず、ゴム産地の獲得に熱中してゐる事實は、英米の新聞雜誌に現はれるゴム論戰で知れる。而して日本も亦南洋に於て原料ゴムに重大な關係がある以上何人も原料ゴム爭奪戰の現況を知つて置く必要があらう。

原料ゴムの用途は廣い、今日の東京の生活に無くてならぬゴム長靴、工場用品、自動車、自転車のタイヤ、殊にゴムの主たる用途は日に月に増加して行く自転車のタイヤであるの言ふまでもない。最近に吾が國に於て急速にゴム會社の創立されるものが増加してゐるのは這般の趨勢を雄辯に物語つてゐる。

本冊は國際的商品としての原料ゴムの過去現在の狀況を明かにし、進んで將來を推斷しゴムの生産、消費、國際的分野等ゴム生産事業の全體に亘つて、最新の材料に基き、最も公正なる立場より之れを研究考察したものである。本篇の筆者は所謂ゴム事業家ではないから、其の所説研究が自己の利害に捉はれず、最も公正なる立場からしてゐることは勿論である。而して筆者は原料ゴムの研究に於ける吾が國の第一人者であるが、筆者の希望に依りて、本冊は之れを匿名として發表する事に致しました。此の點は編者から讀者に御斷り申上げて置きます。





[上] 米商相フーバー『おいジョン・ブル君 ゴム靴はいただけで此の不景氣の流を渡りとほす積か』  
 [下] 之れはしたりジョン・ブルの打ち返へした球にサムおぢさんの鼻柱ビシヤリ。

及ゴムの過去・現在・将来  
**國際的商品原料ゴム**

目次  
 はしがき

（タイヤパン 邦文パンフレット通信）  
 大正十五年 三月十六日 第三十九册

- 一、原料ゴムの歴史  
 原料ゴムの發見——ゴム栽培史の一エピソード
- 二、ゴムの生産  
 世界に於けるゴム栽培面積——世界に於けるゴム生産高
- 三、ゴムの消費  
 世界のゴム消費分布
- 四、ゴム栽培事業は投機的企業であるか  
 ゴム市價變動表



## 五、ゴムの將來

ゴム市價は何故大變動したか——ステイル氏の前途觀

## 六、原料ゴムの國際的分野

各國の投資額

## 七、わが國の對策

ゴム事業は國家的援助を要す——對外人賣却邦人ゴム園一覽表

## 附 錄

其の一、ステイブソン・スキームに就いて

其の二、英米のゴム論戰

其の三、邦人ゴム會社の内容

其の四、蘭領拓殖銀行の制度

## は し が き

ゴムと云へば、わが國では直ぐにゴム靴が聊想される。特に震災後の東京では、郊外生活者がめつきり殖えたが、少し雨が降つたり、霜どけがすると、先づゴム靴を履かねばならない。ひとり郊外ばかりではない。帝都の眞中でさへも宛然田圃たんぼの如きものがある。そこへ自動車が進み、泥は遠慮會釋もなく飛んでくる。自轉車が通る、人力車が走る。これらのタイヤ或はチューブは、云はずと知れたゴム製品である。更に又建築材料に、電気絶縁材料に、調帯に、一般工業用品に、最近にいたつては、道路或は廊下等の補装用に……一々これをあげて居れば、際限のない話である。しかし何と云つても量において最もゴムを消費するものは、世界的に云つて自動車のタイヤである。試みにアメリカ合衆國の例をとつてみると、約三十萬トンの原料ゴムを輸入してゐるが、その七割は自動車のタイヤ製造に充てられてゐる。これはひとりアメリカ合衆國ばかりでなく、歐洲その他の諸國においても亦、その大部分はタイヤ用になつてゐる。尤もわが國では、まだ満足な自動車タイヤは出來ず、先年シンガポール方面へ日本製タイヤを輸入して大味噲



をつけたことがある。で現在では主としてゴム靴用である。中流の紳士諸君から、學生から、労働者から、魚屋さんから、お百姓さんから、ゴム靴愛用者は驚くべき數に上つてゐる。従つて原料ゴムの内地市場は、海外相場の影響を別問題として云ふと、内地材料は、實にゴム靴消費高如何にありと云つても差し支へないほどである。餘談であるが、本年に入つて殆んど東京地方は、好天氣續きなので、ゴム靴の賣行は悪しく、それが内地市況に影響したことは事實である——内地市況軟化は勿論主として海外相場が漸落歩調になつたことに原因してゐるが。

さて前述の道路或は廊下等の補装用といふのは、經濟上の原因からしてまだ一般に普及されてないが、ロンドンでは既にかの有名なロンドン橋下の新しい揚場が煉瓦疊みの様な體裁で立派に補装されてをり、又同じくロンドン東部のノース・イースタン・レールウエーのニュー・サウスゲート・ステーションの階段もさうである。又アメリカ合衆國でも、シカゴのミシガン・アヴェニュー橋はゴムの補装を施され、しかもかなりな好成績をあげてゐるが、前述の様な經濟上の關係から、まだアスファルトやコンクリートとは同日の談では

ない。

その他ゴムの乳液その儘を製紙原料に加へて強靱な紙質を造ることは、既に成功してをつて、現に英米方面の雑誌に應用されてゐる。なほこの乳液に新鮮な果物を浸し、しかる後これを乾燥すると果物と外氣との接觸が妨げられて、もぎたての果物同様になつてどんな遠隔の地へでも自由に運搬することが出来る——これは昨年ジャワのバイテンゾルフ中央農事試験場長であるクラメル博士の手によつて成功された——といふ報告さへある。勿論これは化學的に云つてゴム液だけの作用でもあるまいが、ともかくゴムの用途といふものは、まだこれからの研究に俟つべきものが多く、この意味でもゴムの前途は益々洋々たるものがあると云はねばならない。のみならず原料ゴムは、その用途以外に栽培事業として、即ち投資の對象として、世界的商品として、更に又最近頗るやかましくなつた國際經濟戰としての英米のゴム戰として、今日は何人も少くとも常識としてゴムに關して一通りの知識を持つ必要があると思ふ。以下ゴムの過去、現在及び將來について簡単に述べてみやう。多少とも世人の参考になれば幸ひである。



## 一、原料ゴムの歴史

### 原料ゴムの發見

今日のゴムは大概おほむね南洋からくるといふことは、大抵の人は皆知つてゐるが、さてこれが商品となつてわが國へ入つてくる道程については、知らない人の方が多いであらう。又その南洋でもすつと昔に溯つてみると、事實今日の所謂ゴムといふものは無かつたのである。あるにはあつても、それは野生ゴムといふものであつて、今日一般に取引されてゐるクレープとかF・A・Qとか云つた様なものではない。従つて組織的な栽培發達は不可能だつたのである。ところがそれが今日どうしてゴムと云へば直ぐ南洋を思ひ出させる位に發達したかと云ふと、その根本は他所から苗を移植したことに始まり、これが南洋の氣候風土によく適合して、除々に發展し、つひに今日の隆盛を見るに至つたのである。

そもく文明人が、ゴムといふものを始めて發見したのは例の有名なコロンブスである。即ち彼がアメリカ大陸發見の途に上つた一四九三——九六年の第二航海の時に、西印度諸島から南洋の沿岸に上陸し、そこで土人がゴムのボールを使つて遊戯してゐるのを見たのである。これがゴムの最初の發見である。尤もボールと云つてもわれくが子供の時に覚えのあるコンニヤク玉の様なものだつたに違ひないが、彼コロンブスとてもたゞ不思議なものが採れるものだと思へた位で、經濟的方面の利用の如きは、別に考へもせず、單に當時の珍奇品として見たに相違ない。

その外古い文献を漁つて見ると、ちよいくゴムのことが出てくる。例へば一五三六年の出版でオヴィド氏 Gonzalo Fernande d'Oviedo の書いた西印度に關する著書の中にも、今のゴム毬ゴムのことが載つてゐる。又一六一五年トルクメダ氏 Jerde Torquemada の書いた著書によると、メキシコに在住してゐるスペイン人が、樹液を外套に塗つて防水用に用ひてゐたといふ。

しかしゴムが化學者の手で初めて研究されたのは、フランスである。即ち一七三六年フ



ランス政府は、南米熱帯地方の緯度測定に、委員を派遣したことがあるが、これらの委員が御土産報告としてパリの科學會院に提出したのに始まつてゐる。ところが一七七〇年に至つて、イギリスの化學者プリーストリー氏 Priestly が消ゴムの發明をなし、これがゴム實用化の先驅をなしたのである。その後アフリカにおいても、又東印度においても、續々發見されて、ゴムが熱帯各地から出るといふことが、世界的にわかつてきたが、所謂野生ゴムは随分高價なもので、一寸實用には適しないものであつた。これが眞に實用化されたのは、實にゴム栽培の成功に負ふてゐるのである。

#### ゴム栽培史の一エピソード

十九世紀の中頃、英人ウキクハムといふ人が、たまく野生ゴムの生産地である南米のブラジルに遊び、親しくその野生状態を視察して、この野生のものを栽培することが出来たなら、それこそ巨利を博し得るだらうと考へて、早速イギリスに歸つてゴム栽培事業の

有利有望な所以を、各方面に宣傳して廻つたが、地中海の金塊引上事業と同じ様に、誰としてみてもとてなかつた。ところが一八七五年いよいよ運が向いてイギリス皇室キュー植物園から秘かに野生ゴム栽培のことを委囑されたので、その年彼は勇んで南米ブラジル指して渡航した。

丁度この頃、ブラジル政府は、このゴムといふ貴重な天産物、しかもヨーロッパでは珍重されながらも手にすることの出来ない様な大事なゴムを虎の子の様にして、産地は出来るだけ秘密にすると共に、種子の輸出の如きは勿論嚴禁してゐた。そこでウキクハム君は、どう云ふ手段でこの種子を盗んで持つて歸らうかと、大分頭を悩ましたものだ。一日彼は、アマゾン河を溯り、マデー河が丁度アマゾン河に合流するところで、上流から下つて来る一隻の商船に出遭つたのを勿怪の幸ひとして、彼は突嗟の間にこれを借切つてしまつて、一芝居打つ腹をきめた。まづその商船の名で早速船員達を上陸させ、懸賞付きでゴムの種子を出来るだけ採集させた。こうして集めた種子は、正に七萬粒にも達したと傳へられて



あるが、とにかくこれは公々然とは持ち運びの出来ないものであるから、船底の奥深くにこれを隠匿して、<sup>うはせ</sup>上面には採集した普通の熱帯植物を満載して、バラ港に歸つてきた。彼にとつてはこれからは眞個の難關である。彼は薄氷を踏む様な心を抱いて、税關の檢閲に應じた。ところが幸ひにもイギリス領事の斡旋で、彼は正眞正銘キュー帝室植物園の依頼を受けた植物學者であるといふことに誤魔化し終せて、マンマとそこを通過してしまつた。そこで彼は躍る心を押へつゝ大西洋を滑るが如くにして、翌一八七六年イギリスに歸つてきた。かくてこの七萬粒の種子は、早速キュー植物園の温室に蒔かれ、二千六百二十五本の苗木を育て、その内二千本をセイロン島に、その他を印度や、シンガポール或はジャワに配布したのである。そしてシンガポールに送られたのは、丁度一八七七年ことで、その苗木は僅かに二十二本に過ぎなかつたが、これが一八八一年に花を開き實を結び、この實が馬來半島の各地に頒布され、ここにゴム栽培事業の基礎が出来たのである。爾來氣候風土等自然條件とイギリス官憲の熱心な奨励とが相俟つて、ゴム栽培事業は隆々として發展

し、當時漸く不振に陥つてゐた珈琲栽培事業に取つて代るに至つたのである。

### ゴムの生産

今ゴム栽培發達の経路を栽培面積の數字によつて現はしてみると、大體次の様な結果となつてゐる。(單位千ヘクター)

#### 世界におけるゴム栽培面積

年 度	ヨーロッパ人所有面積		アジア人所有面積		合 計
	年度植付面積	累 計	年度植付面積	累 計	
一九〇二年迄の累計		二二	一	一	二二
一九〇三	一三	三五	一	一	三六
一九〇四	二七	六二	一	二	六四
一九〇五	六一	一二三	二	四	一二七
					年度植付合計面積
					累 計



年 度	ヨーロッパ人所有面積		アヂア人所有面積		合 計
	年度植付面積	果 計	年度植付面積	果 計	
一九〇六	一二七	二五〇	九	一三	一三六
一九〇七	一六一	四一一	九	二二	一七〇
一九〇八	一四八	五五九	三〇	五二	一七八
一九〇九	一一八	六七七	四一	九三	一五九
一九一〇	二一四	八九一	一四一	二三四	三五五
一九一一	二七〇	一、一六一	一一三	三四七	三八三
一九一二	二二〇	一、三八一	一一四	四六一	三三四
一九一三	一三七	一、五一八	九二	五五三	二二九
一九一四	一〇三	一、六二一	八四	六三七	一八七
一九一五	一〇五	一、七二六	一〇三	七四〇	二〇八

一九一六	一六三	一、八八九	一〇二	八四二	二六五	二、七三一
一九一七	二五八	二、一四七	一三一	九七三	三八九	三、一二〇
一九一八	一九五	二、三四二	二〇七	一、一八〇	四〇二	三、五二二
一九一九	一四七	二、四八九	一八一	一、三六一	三二八	三、八五〇
一九二〇	一一八	二、六〇七	九〇	一、四五二	二〇八	四、〇五八
一九二一	七四	二、六八一	五二	一、五〇三	一二六	四、一八四
一九二二	四〇	二、七二一	二六	一、五二九	六六	四、二五〇
一九二三	三一	二、七五二	一五	一、五四四	四六	四、二九六

以上の面積、即ち今日約四百餘萬エーカー(筆者註「エーカー」は略々わが四反二十四歩にあたる)といふ様な尨大な地積に、ゴムが栽培されてきたのであつて、その年産量は野生ゴムの生産と併せてこれ亦次に示す様な發達を示してゐる。(單位英トン)



世界に於けるゴム生産高

年次	栽培ゴム	野生ゴム	計
一九〇〇	四	五三、八八六	五三、八九〇
一九〇一	五	五四、八四五	五四、八五〇
一九〇二	八	五二、三三二	五二、三四〇
一九〇三	二一	五五、九二九	五五、九五〇
一九〇四	四三	六二、〇七七	六二、一二〇
一九〇五	一四五	六二、〇〇〇	六二、一四五
一九〇六	五一〇	六五、七〇〇	六六、二一〇
一九〇七	一、〇〇〇	六八、〇〇〇	六九、〇〇〇
一九〇八	一、八〇〇	六三、六〇〇	六五、四〇〇
一九〇九	三、六〇〇	六六、〇〇〇	六九、六〇〇

一九一〇	八、二〇〇	六二、三〇〇	七〇、五〇〇
一九一一	一四、四一九	六〇、七三〇	七五、一四九
一九一二	二八、五一八	七〇、四一〇	九八、九二八
一九一三	四七、六一八	六〇、八二二	一〇八、四四〇
一九一四	七一、三八〇	四九、〇〇〇	一二〇、三八〇
一九一五	一〇七、八六七	五〇、八三五	一五八、七〇二
一九一六	一五二、六五〇	四八、九四八	二〇一、五九八
一九一七	二一三、〇七〇	五二、六二八	二六五、六九八
一九一八	二五五、九五〇	四〇、六二九	二九六、五七九
一九一九	二八五、二二五	四一、六三五	三二六、八六〇
一九二〇	三〇四、八一六	三八、九一五	三四三、七三一



年次	栽培ゴム	野生ゴム	計
一九二一	二七一、二三三	二二、七二七	二九三、九六〇
一九二二	三五四、九八〇	二四、九六〇	三七九、九二〇
一九二三	三八四、七七一	二八、〇〇〇	四一二、七七一
一九二四	三九一、六〇七	二九、六一〇	四二一、二一七

右表によると、その当初一九〇〇年度には野生ゴムは栽培ゴムを遙かに凌駕し、五萬三千トンを生産してゐたのに對し、栽培ゴムは僅かに四トンといふ情けない有様であつたが、その後十四年の歳月を経た一九一四年には、つひに栽培ゴムは野生ゴムを凌駕する様になり、爾來栽培ゴムの發展は目覺しいほどで、野生ゴムは到底この趨勢に追隨し得なくなつた、即ち栽培ゴムの三十九萬トンに對して野生ゴムは三萬トンとその一割にも達しない様な現況である。即ち野生ゴムは、一九一〇年前後の所謂ブーム時代を限り、一九一二年の七萬トンを峠として漸く退嬰の兆を現したのは、全く自然の趨勢であらう。尤も今日の様

にゴム相場が高値を現はしてくると、少々不便なところまで採りに入つても、結構儲かるのであるから、野生ゴムの採集が幾分増加すると考へられないこともないが、右の統計數字を覆がへすに足る様な數量は、到底望み得られるものではない。

### 三、ゴムの消費

次に消費の方面であるが、これも生産と同様に漸増の勢ひにあるのは勿論である。即ち一八四一年米人ネルソン・グードイア氏 Nelson Goodyear の硫化法が發明せられたのに次いで、一八五六年自動車のタイヤに關する論文が發表せられたので、ここにゴム産業は大革命を招來し、その勃興は年と共に股賑を極めるに至つたのである。今最近十ヶ年間に於ける世界のゴムの消費分布を明かにしてみると、大體次の様な數字になり、以てその發達の大勢を窺ふことが出來やう。(單位英トン)



世界のゴム消費分布

年度	米 國	英 國	露 西 亞	獨 逸	佛 蘭 西	伊 太 利	日 本	加 奈 陀	白 耳 義	其 他	合 計
一九二二	四九,八五一	一八,六四〇	九,〇〇〇	一八,七〇〇	六,五〇〇	二,〇〇〇	一,三〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	一,五〇〇	一三二,二九一
一九二四	六一,二四九	一八,〇〇〇	二,六〇〇	一三,四〇〇	五,〇〇〇	四,〇〇〇	二,四〇〇	一,七〇〇	六〇〇	二,四〇〇	一三〇,三六〇
一九二五	九六,七九二	一五,〇七二	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	一〇,七七〇	六,五〇〇	二,五〇〇	四,五〇〇	—	六,五六八	一五八,七〇二
一九二六	二六,四五五	一六,七〇〇	七,五〇〇	三,六〇〇	一四,〇〇〇	九,〇〇〇	四,五〇〇	四,〇〇〇	—	四,五二五	一八九,七六〇
一九二七	一七,〇八八	二五,九三三	七,五〇〇	三,〇〇〇	一七,〇〇〇	九,〇〇〇	四,五〇〇	六,二八七	—	五,三三三	二五五,六七五
一九二八	一四二,七三三	三〇,一〇四	二,〇〇〇	一,〇〇〇	一八,〇〇〇	九,八〇〇	七,四〇〇	八,三〇〇	—	五,〇〇〇	三三四,三七六
一九二九	三三六,九七七	四三,五五〇	一,一〇〇	四,〇〇〇	一〇,三〇〇	一〇,二〇〇	一三,〇〇〇	九,五〇〇	三,九四四	五,五六六	三四八,三九七
一九三〇	二四八,七九二	五六,九七三	一四〇	一三,四〇〇	一六,〇〇〇	六,三〇〇	五,五〇〇	一三,〇〇〇	三,五〇〇	一三,五六〇	三七四,〇六九
一九三一	一七九,六四七	四三,二六	二〇〇	三,四二八	一四,七〇一	四,〇〇〇	三,一六四	八,二五九	一,七〇五	六,二二六	三〇三,三四六
一九三二	二九六,二六七	一一,二六四	三,一〇〇	二七,五五一	二七,六〇〇	六,五〇〇	一六,五六二	九,三三三	二〇四	一,三六六	三九六,九一〇

かくのごとく世界のゴム消費量は一九一三年の十一萬二千トンに對して、一九二四年には實に四十一萬九千トンの多きに上り、近々十ヶ年の間に約四倍に近い發達を遂げてゐるのである。實に驚くべき發展と云はねばならない。

四、ゴム栽培事業は投機的企業であるか

以上によつてわれ／＼は、世界における原料ゴムの生産及び消費の大勢を大體知ることが出來たが、これによると、世界的の需給關係は、いづれも四十二萬トン見當で、至極圓滿に均衡を保つてゐる様であり、かつ又順調の足取りで兩者が發達してゐる様に見受けられるけれども、事實は市價の上に非常な變動が起つてゐる。かくて、ゴム栽培事業は投機的な企業で誠に不堅實なものである。黄金時代があると共に、どん底時代の危険がある。

一九三三	五〇〇,五六四	一三,五六六	四,九〇〇	一九,四六六	三二,一〇八	八,四九〇	一七,三三八	二,五五五	一,七八〇	五,〇三三	四二四,二二〇
一九三四	三三八,二五六	一一,二一〇	一,五〇〇	三三,七七八	三四,四三三	八,七六四	一九,七六八	五,〇五八	二,二五五	六,〇二四	四二九,三六四



従つて必ずしも有望な事業とのみは云ひ得ない、と云ふ様な議論が起つてくる。しかしこれは甚だ皮想な観察であつて、今一步詳細に、しかも根本的に研究を進めて行くと、今日の大勢から推して、ゴム栽培事業なるものは決して危険な事業ではないと同時に、かへつて益々前途有望であるといふことが、明瞭になつてくるのである。この理由については、後段において述べることにして、ここではたゞ原料ゴム市價の年度表をあげて、ゴム栽培事業は投機的企業であるといふ議論が、一見如何に尤もらしい議論であるかを、讀者諸君に紹介して置かう。

ゴム市價變動表

年 度	最高値 片	最低値 片	平均 片
一九〇九	九・三	五・三	七・一
一九一〇	一二・九	五・七	八・九
一九一一	七・三	四・六	五・五半

一九一二	五・九	四・一	四・九
一九一三	四・六半	二・〇	三・〇四分の一
一九一四	三・〇	一・一一半	二・三半
一九一五	四・一半	一・一一四分の三	二・六
一九一六	四・三半	二・一四分の三	二・一〇四分の一
一九一七	三・四半	二・二四分の三	二・九四分の三
一九一八	二・六四分の三	二・一	二・三半
一九一九	二・一一	一・七	二・一四分の一
一九二〇	二・一〇四分の一	〇・一	〇・一一
一九二一	一・三半	〇・八	〇・一〇半
一九二二	一・二半	〇・六四分の三	〇・九四分の一
一九二三	一・六半	一・一四分の一	一・三四分の一
一九二四	一・八	〇・九八分の五	一・一八分の七



これによると、一九一〇年五月は栽培ゴム始まつて以來の最高記録で、一ポンド當り實に十二シリング九ペンス、産地シンガポール市場において五六ドルを唱へられた時である。それより漸落歩調となり、一九二二年にはたゞの六ペンス四分の三、産地相場は二十セントといふどん底に陥つたのである。これでは無論生産費を償ふことさへも出來ず、有望なるべくしてその實全く反對の様な觀を呈し、ゴム栽培事業そのものは根本的矛盾に蓬着してくるかと思ふと、昨年八月頃は又々盛り返へして一ドル八十セント見當となり、今日でもかなり低落したとは云へ、一ドル臺を維持してゐる。そこでゴム栽培事業は投機的企業であるといふ結論に達するのも、あながち無理ではない、いな、一應は成り立つ議論の様にも思へるのである。

## 五、ゴムの將來

### ゴム市價は何故大變動したか

さて以上述べた様な知識によつて、ゴム栽培事業等の前途を考察してみると、今日世界

における栽培總面積四百萬エーカーに對して、その生産は現在約四十萬トンである。尤も本年の二月一日から英領馬來における生産制限は撤廢せられ、従つて四十萬トン全部が市場に現れることになつたが、(後で述べるスチヴンソン・スキームによると、本年二月一日から生産は九割五分まで出來ることになつてゐたのが、ゴム市價の昂騰で十割即ち制限を撤廢し得るにいたつたのである)。労働者の雇傭その他で直ちに全額を生産を見るものとは思はれない。尤も各ゴム園について最初査定した標準生産量が果して當を得てゐたかどうかによつて、事情は變つてくるが、又ゴムは少くとも五年を経過しなければ、採液し得ないのであるから、一九二〇年以後に植付けられたものは、所謂未採集林であつて、まだ生産數字を産むことの出來ないものである。従つてこれらの數量も、この四十萬トンの内には入つてゐない譯である。尤も一九二〇年以後の植付と云つても、當時不況のどん底時代であつたから、事實上大した増加はしてゐないと云へる。それはともかくとして、現在の地積でその生産に全能力を發揮させるとすれば、どの位の生産量になるかと云ふと、一エ



1カーから約三百五十ポンド平均と見て、大凡そ七十萬トンとなる。

しかして消費はどうかと云ふと、前述の如くゴムの製造工業そのものの眞の發達もまだこれからの問題であり、現在におけるゴム消費の大工業である自動車のタイヤが今後益々増加する一方である以上、消費が漸増の趨勢にあることは、當然の成り行である。けれどもこの消費の方は、生産と違つて、數字的基礎といふものが、今まで極く曖昧であつた。これが今日一部の人に、ゴム栽培事業といふものを悲觀させ、危險視させた一つの大きな原因である。即ち前に掲げた世界におけるゴムの年度別消費状態を見るに、大戦中はもとより漸増の數字を現はしてゐる——一九二一年は減少してゐるが、これは財界變動の反映であつて、大局から見るとやはり一時的の減少で、昨年は四十一萬九千トンにまで進んでゐる——そこでわれ／＼は、戦前戦後を通じてゴムの消費は、如何にも順當に、堅實な發達をしてきたものであるかの様に考へたのである。いな、この漸増の數字に誤魔化されてきたのである。しかし事實から云ふと、大戦中は世界消費の減少で市價の下落を見なければ

ならぬ筈だつたのである。即ち一九一四年歐洲大戦が勃發すると共に、歐洲におけるゴム工場は、全部軍需品の製造に充てられた。續いて軍需品の注文がアメリカに殺到したためアメリカでも軍需品の製造に大馬力をかけ、多くのゴム工場はこれに充てられた。そこで世界のゴム消費は當然減少した。ところが當時非戰國は稀有の好況を呈し、各方面に亘つて不景氣知らずの時代を現出したので、當然下がるべき筈のゴム相場も、この勢ひに釣られて下がり切らなかつたのである。ところへ大戦は熄み、世界的な財界の變動がきたので、もと／＼實需の不振であつたゴム市價は、他商品にも増して慘落となつたのである。こうした経緯が、從來統計が不完全であつたのと相俟つて、投機的といふ觀念を世人の心に刻みつけたばかりでなく、消費の研究を極く皮相なものに止めてしまひ、徒らに生産過剩といふ聲のみを大にしたのである。

#### ステイル氏の前途觀

さてしからば、原料ゴムの將來はどうなるかといふ問題になる。これについては色々の



説があり、色々の数字が発表されてゐるが、原料ゴム經濟の世界的權威者であるエー・ダブリュ・ステイル氏——ストレーツタイムス紙の主筆で、例の有名なステイヴンソン・スキーム(附録其の一参照)の骨子をつくつた人——が昨年六月に、馬來半島のコーランポで開かれた栽培聯合會の席上で試みた講演は、最も新しく且つ最も有益な材料と思はれるから、これを極く簡単に紹介してみやう。

ステイル氏は、消費の増加を結局生産にもとめてゐる。即ち八ヶ年間の總勘定において生産と消費とが相均衡したものとし、これを前提として一九二一年—二四年の四ヶ年間の平均年生産、即ち最も不況前の生産に比して増加してゐる数字を、その儘消費の増加率としたもので、最も消極的な算定方法を探つたものである。しかして一九二四年度の世界の消費を四十一萬八千トンに切り、遂年の増加率を年割六萬八千八百二トンとして計算を進めてみると(單位トン)

一九二九年度 : : : : : 六二、〇一〇

一九三〇年度	:	:	:	:	:	一三〇、八二二
一九三一年度	:	:	:	:	:	一九九、六一四
一九三二年度	:	:	:	:	:	二六八、四一六

といふ世界的不足が生じてくるのであるから、これを充足するためには、今後なほ三百萬エーカーの新規植付を必要とするものであるが、これに對してイギリスは、その産業貿易上、國家的見地からして、少くともその内の半分百五十萬エーカーはイギリスの手に收めて以て今日の覇者たる地位を失はぬ様になければならない。これがためには、政府は宜しく公債の發行保證をなし、國家永遠の策を樹立せよ、しかしてこれが償還の方法はかくくであつて、たとへ公債の利子の立替拂をなしても、政府は結局廿ヶ年の間に三千萬ポンドの國庫收入を收めることが出来る——といふのが、大體ステイル氏の前途觀でもあり、また主張でもあつた。

またアメリカにおいても、これと時を同じうして、商務卿フーバー氏——イギリスのス



テイル氏に相對する世界的權威者——は、ゴムの近き將來において、即ち一八三〇年には必ず世界的不足を生ずべきことを聲明してゐる。その他馬來半島における有力な栽培業者カミング氏の研究(ストリート・タイムス紙本年一月十日所載)によつても、或は又アメリカのゴム協會の豫想によつても、數字上の差こそあれ、ともに一九二八年より少くとも一九三〇年にかけてはゴムの世界的不足のくることを斷言してゐる。

のみならず最近アメリカにおいては、上下をあげてゴムに關する討論が盛んに行はれ、延いては英米間の國際的論議を醸すに至つたことは、讀者諸君においても屢々新聞紙上で承知されてゐると思ふが、この傾向は、一にゴム價の昂騰と、前述の如く將來におけるゴムの世界的不足の豫定から生じたことは、疑ひもない事實である。(附録其の二参照)

これを要するに、ゴムの世界的不足といふ問題は、ここ數年を出でずして起ることは、少しくゴムを眞面目に研究した人であれば、何人も疑はないところであらう。

## 六、原料ゴムの國際的分野

以上簡單ながら原料ゴムの生産及び消費、更にこれが將來について、説明してきたがいま觀點を變へてゴムの國際的分野を通觀してみると、既に前に掲げて置いた表によつても明かな様に、大體英米の二大別に分れてゐる。即ちその生産供給において、イギリス側は約七割を占め、その消費需要においてアメリカ側は約八割を占めてゐる。かう云ふ分野であるから、アメリカの一顰一笑は直ちにイギリスの脅威となり、又これと反對にイギリス政府の手になる生産制限、延いてはゴム市價の暴騰は、アメリカにとつて最も脅威とするところである。そこでアメリカは、窮餘の一策として、ヒリツピンにおけるゴム栽培の有望を説き、或は中南米に廣大な栽培を試みることを宣傳してゐる。さうかと思ふと、最近では又南亞細亞リベリヤに二百萬エーカーを開拓して、自給策を講ずべしと叫んでゐる。

しかしながらゴム栽培事業は、ひとり熱帯地方に限り、しかも豊富なる勞力と低廉なる賃銀と、更に大いなる資本を要する事業である。この點において、アメリカは最後の條件



である資本については、もとより何等憂ふるものはなからうが、前二者の實現は容易に期待し得られない状態にある。

かくの如くアメリカは、生産の點で到底イギリスの敵でないと共に、消費の點では、最大の用途である自動車のタイヤは、逐年需要が増加するばかりで、こうした方面からもアメリカの苦惱が看取される。わが國の如く道路の貧弱な國では自動車の發達の如きは、自然遅々たるもので、従つて原料ゴムの消費國としても、殆んど國際的關係には觸れてないと云つてもいい。よしんば觸れてを つても、誠に微々たるものである。

その他アメリカばかりでなく、歐洲の恢復は各國ともにゴムの需要を増大せしめ、更に又南米の開發は、道路の完備と共に、將來先づ自動車の發達を促進するであらう。しかしタイヤ製造においても、最近バルーンタイヤの普及は著しく、一九二四年中バルーンタイヤの製造高は、全體の一割であつたのが、一九二五年中には二割五分と算定せられ、しかも従來のタイヤに比し耐久力は八割七分五厘しかないから、バルーンタイヤの普及はそ

れだけ消費を助長する譯である。今アメリカの自動車登録数を掲げると左の通りである。

	一九二三年末	一九二四年末	増加率
乗客用自動車	一三、四八四、九三九	一五、五九七、六二八	一五、七%
荷物用自動車	一、七九六、三五六	二、一四二、六〇八	一九、〇%
自動自轉車	一七一、五六八	一三九、六八八	一八、〇%
總計	一五、四五二、八六三	一七、八七九、九二四	一三、六%

なほ自動車の壽命は、一般に六年とせられ、即ち千七百萬臺を維持するだけでも年々三百萬臺の補給を必要とすると云はれてゐる。又歐洲方面の自動車の需要増加と共に、輸出は漸増傾向にある。例へば一九二三年五月より一九二五年四月にいたるアメリカの自動車輸出高を見ると

一九二三年五月—一九二四年四月	一四〇、九六三臺
一九二四年五月—一九二四年四月	一七五、一七二臺



とあつて、この方面においてもゴム消費の増加は免かれない趨勢にあると云はねばならぬ。しかしてこれらに對して、原料ゴムの供給をなすものは、今日殆んど南洋に限られしかもその南洋ゴム栽培の大部分はイギリスの勢力下にあるのであるから、イギリスの力はまた偉大なりと云ふべきである。今参考のため、各國別ゴム栽培事業に對する投資額を表示してみやう。

各國の投資額

國名	投資額 (單位百萬圓)
イギリス	九八〇
オランダ	二六〇
アメリカ	六四
フランス	六〇
ベルギー	二三
其他の歐洲人	九四
歐米人栽培面積 二、七〇〇 (單位チエーカー)	

日本	七〇
其他のアジア人	五五〇
計	二、一〇一
アジア人栽培面積 一、三〇〇 (單位チエーカー)	
計	四、〇〇〇

七、わが國の對策

邦人のゴム栽培事業

最後に一言わが國のゴムについて述べて、この小篇を了りたいと思ふ。  
 そもくわが國はゴム工業國として立つべきか、はた又海外事業として供給者の地位を確保すべきかと既に問題である。順序として先づわが國の輸出入額を次に擧げてみやう。  
 (數量單位トン價格單位千圓)

年 度	輸 入	輸 出
	數 量	價 格
一九一八年	七、七〇七	六、四九九
		一二、九四八



年 度	輸 入		輸 出 價 格
	數 量	價 格	
一九一九年	一〇、七七三	一七、三六四	一〇、九六八
一九二〇年	六、〇六二	一三、四三三	一一、二二〇
一九二一年	一三、一六四	一五、七二四	六、四九九
一九二二年	一六、九三八	一一、三二五	八、四五七
一九二三年	一六、二四八	一九、三二四	二、一八一(上半期)
一九二四年	一九、六一七	二二、三四二	一、二八一(上半期)

以上の如く製品の輸出価格は、常に原料ゴムの輸入額に及ばず、本邦ゴム工業の現在は、まだ幼稚を極めてゐる。この輸入量を悉く消費するものとし、その平均を二萬トンとしても、これを世界の全消費高の四十萬トンに對して漸く五分にしか當らない。従つて輸出貿易にゴム製品が活躍し得るにいたる迄には、なほ相當の時間を要するものと見なければならぬ。

翻つて邦人のゴム栽培状態を見ると(大正十三年六月調)

(面積單位ユーカー、數量單位トン、金額單位千圓)

	馬來半島方面		スマトラ方面		ボルネオ方面		計
	面積	金額	面積	金額	面積	金額	
總租借面積	一二九、二一八	一一〇、七七七	五七、四六二	三〇六、四五七			
總植付面積	八四、五二二	一五、九三一	二〇、二六五	一一〇、七〇八			
總採集可能林面積	五六、〇一五	四、四三九	四、八五七	六五、三一			
生産可能量	八、一六九	六八〇	六一五	九、四六四			
總投資金額	五一、一九三	九、六六〇	八、九〇〇	六九、七五三			

(各邦人會社の栽培状態並びに會社内容については『附錄其三』参照)

といふ状態で、今日では植付面積十二萬ユーカーの内約半分しか採集してをらぬのであるから、やがては二萬トンないしは三萬トンといふ風に生産が殖へてくるのは、明かな事實である。たとへ現状の儘とするも、約二千萬ポンドの原料ゴムが、現在邦人の手から生産



されてゐるのであつて、産地相場平均一ドル二三十セント(最近の高値は一ドル八十セントを告げてゐたが、歐洲ではつひに一ドルを割つた)とすれば、生産費を七八十セントと見ても、一ポンド當り五十セントの純益となり、二千萬ポンドで正に一千萬圓の純益となる。しかも増産の傾向は明かになり、又市價も結局更に反換することは容易に豫想し得るところであるから、わが國貿易外の受取勘定に二三千萬圓を産むことは、必ずしも難事ではあるまいと思はれる。早い話が今日のゴム會社の諸借入金は約八百萬圓に上つてゐるが、これは今後一二年にして恐らく全部償還し得る筈である。昨年下半年において、ゴム株が花形株の觀を呈し、世人またゴムに關して改めて注意するやうになり、更に新聞雜誌は競うてゴムに關する記事を掲げるやうになつた所以のものも、つまり這般の事情に胚胎してゐると云つて差支へなからう。

ゴム事業は國家的援助を要す

最近邦人のゴム園が盛んに賣られる。中には散在せる自己のゴム園の整理統合の目的で、

新規に有望なゴム園を買収したのも一二あるが、大半は賣却代を以て借入金の償還に充てんとするものか、ないしはゴム市價の高値に惚れて一舉に儲けやうとする類である。昨春來邦人ゴム園の賣却されたものを擧げると、大要左の如きものがある。(面積單位エーカー)

對外人賣却邦人ゴム園一覽表 (馬來半島所在)

社名	地域	植付面積	價格(單位ドル)
日東ゴム(全國)	レンガム及びニヨル	六、六五〇	約二百四十萬
臺灣拓殖(同)	ラヤンラヤン	一、二〇〇	約五十萬
ジョオールゴム(一部)	ラヤンラヤンの一部	未植 三三〇〇	約十五萬
聯合馬來(同)	スレンパンの一部	一、四五〇	約五十萬
第一合同(同)	ジョホール河沿岸の一部	一、二〇〇	約六十萬
鈴木ゴム(全國)	ユタテイインギ	未植 二、〇二六	約百十萬



社名	地	域	植付面積	價格(單位ドル)
古河ゴム(同)	ジョホール	河沿岸の一部	二、八〇〇	約百九十萬
南進公司(同)	ジョホール	海峽	七〇〇	約六十三萬
南亞公司(一部)	バトバ	ハ州バナム	二、三七〇	約百八十一萬五千
口新ゴム(全園)	シンガ	ポール島	未植 一、〇二〇 二、二〇〇	約六十二萬五千
計			植付面積 一九、七四六 未植面積 二、五一〇	? 約一千二十二萬

この現象は國家的缺地に立つて見ても、或は亦個人的立場から云ふも、誠に遺憾の上もない話である。しかるに相當識者と云はれる人々でも、これを一時の貿易外受取勘定の材料に用ひ、所謂投機的企業から足を洗ふことを極力推奨してゐる向もあるが、大局を知らぬのも亦甚だしいと云はねばならない。

惟ふにわが國において海外發展策の講ぜられたことは、既に年古く、しかも聲のみ徒ら

に大で、その實件はず、政府も一般國民も共に退嬰氣分に隨してゐたことは、何人も否定し得ないところであるが、南洋における邦人の事業の如きは、誠に一異彩とするに足るものである。即ち特殊銀行筋の僅かな援助によつて、既に邦人のゴム、マニラ、ヘンプ或は甘蔗栽培に投資した額は一億圓(その内ゴム栽培に對して七千萬圓)に達し、將來益々鞏固な發達を見んとする域にまで達したことは、わが國における海外企業の先驅と云はねばならない。しかしこれらの事業はまだ僅かにその緒についたに過ぎず、今や更に一大決心を以て當らなければならぬ時である。かやうな重大な秋にあたつて、續々邦人ゴム園の賣却の現れるのは、實に悲しむべき傾向である。これはひとり邦人ゴム栽培業者のみを責むべきではない。彼等は實に十數年の基礎的事業に従事して幾多の艱難を嘗め、今日幸ひにゴム市價の昂騰に際會して、一舉に巨利を博さんとするに至つた心事も、一應は諒としなければならぬ。問題は彼等をしてかくの如きに至らしめた根本原因である。即ち栽培業の性質上巨額の固定資本を必要とするに係はらず、從來この方面に對する金融機關に何等見るべきものがな



かつたことである。しかるにオランダ及びイギリス政府の如きは、夙とにゴム栽培業に對して國家的援助を行ひ、これによつて今日の如き隆盛を來したのである。(附録其の四参照)  
 もとよりわが國におけるゴム製造工業の發達は、極力助長すべきものであるが、これと同時に本邦唯一の海外企業たるゴム栽培事業も宜しく國家的援助を以て大成させ、世界的寶庫たる南洋の無盡藏なる富の分配に參與さすべきである。最近傳へられるところによれば、大藏省も漸くこの點に留意し、目下これが金融機關の特設或は運用方法の改善等について折角調査中とのことであるから、一日も早くこれを解決して、海外發展の國策を確立せられんことを、希望して已まぬ次第である。

(二六、二、二六脱稿)

## 附 錄

- 其の一、 スチーブンソン、スキームに就て
- 其の二、 英 米 の ゴ ム 論 戰
- 其の三、 邦人ゴム會社の内容
- 其の四、 蘭領拓殖銀行の制度





[上] サムおちさん夜寒に夢破られてはジョン・ブルの湯たんぽが美しくなる。

[下] フーバー坊『其のオシャブリよこして、よこして』。

附 録 「其の二」

ステイヴンソン・スキームに就いて

ステイヴンソン・スキームは一九二二年十一月一日より施行されて今日に至つたが、今日のゴム市價好轉の一大原因になつてゐる。今この法令の發布された顛末を簡単に説明してみる。

一九一八年六月アメリカ政府は戦時工業政策の見地から船腹不足の對策として、從來二十萬トンの原料ゴム輸入を十萬トンに制限するべく原料ゴム輸入防遏令を發布したので、當時世界各地におけるストックは二十六七萬トンに上り、栽培業者は非常な苦境に陥つたので、生産制限の聲が漸く起つてきた。しかるに防遏令の効果薄く一九一八年アメリカは十七萬トンを輸入してしまひ、大戦後一九一九年から二十年にかけて從來の記録を破つて二十四五萬トンを輸入することになつたので、防遏令は結局解かれてしまつた。従つて裁



培業者側にも樂觀説が行はれるやうになつたが、採集面積の漸騰と財界の恐慌來で再び市價はデリ安歩調となり、滞貨の兆が現れたので、又も生産制限の主張が起り、ここに三割の自發的生產制限の提案を見て、實施せんとしたが協定が破れてつひに成功しなかつたが、幾分市價の昂騰を見たので、生産制限の効果は一般に信ぜられるやうになつた。ついで一九二二年の初め頃例のステイル氏が案をたて、コーランボの栽培聯合會にかけて、これを馬來聯邦州總督ギルマノード氏に建議したので、總督はこれを齎らして英本國に歸つたが賛成者が、案外少く一時同案は停頓の憂目にあつた。しかるに當時アメリカが、原料ゴムの買占を斷行するといふ風評が専らだつたのが、英國民を痛く刺激し、つひにステイヴンソン卿を委員長として委員會が成り、主としてステイル氏の原案を土臺として所謂スチヴンソン・スキームの發布を見たのである。當時右法令の骨子は左の如きものであつた。

一、各栽培會社の標準生産高の六割に對しては最小限度の輸出税を課し輸出數量の増加する毎に税率を増加すること

二、右の如くにして先づ三ヶ月間實行し尙ゴムの市價が十ペンスに達せざる時は更に税率を引上ぐること

三、かくの如き方法によるも尙平均十五ペンスに達せざる時は三ヶ月毎に税率を引上ぐること

四、セイロン及びマレイ半島に地方委員、ロンドンに中央委員を置き、この法令の施行を監督せしめること

五、ゴムに輸出税を課する法案を各關係植民地の議會に提出し速に通過を計ること  
 なほ右制限令施行以來の經過を示すと左の通りである。(市價單位セント)

期	間	制限率	最高値	最低値
自大正十一年十一月	至十二年一月末	六割	五七	四一
自大正十二年二月	至同年四月末	六割	六一	五六
自同	年五月一至同年七月末	六割五分	五〇	四八



期	制限率	最高値	最低値
自同 年八月―至同 年十月末	六割	五二	四七
自同 年十一月―至十三年一月末	六割	四九	四八半
自大正十三年二月―至同 年四月末	六割	四七	四二
自同 年五月―至同 年七月末	六割	三九	三四
自同 年八月―至同 年十月末	五割五分	五六	四八
自同 年十一月―至十四年一月末	五割	六四	五九
自同 年二月―至同 年四月末	五割五分	七七	六三
自同 年五月―至同 年七月末	六割五分	一七六	七二
自同 年八月―至同 年十月末	七割五分	一六九	一一一
自同 年十一月―至十五年一月末	八割五分	一八二	一六〇
自同 年二月―至同 年四月末	九割(目下施行中)	―	―

附 録 〔其の三〕

英 米 の ゴ ム 論 戦

アメリカでは一九二五年度に、ゴム輸入のために四億ドル以上を支拂つてゐる。前五ヶ年は二億四千萬ドルであつたといふから、異常の増額である。これではさすがのアメリカも不平満々である。最近アメリカ議會におけるゴム論戦は、凄じいものであつた。例へば下院議長ロングウォルス氏は、英政府の遣り方を國際的騙取と稱し、民主黨議員コルデル・ハル氏は追剥と罵つた程である。これに對してはイギリス側も黙つてゐない。それは兎も角としてアメリカ側は何とかしてゴム事業におけるイギリスの勢力を打破すべく盛んに研究中であるが、商務卿フーバー氏の如きは、(一)代表機關を設けて大量的にゴムを購入すること (二)タイヤの節約 (三)熱帯地方に新しくゴム栽培等を奨励すること (四)代用品の發達に努力する等の案を極力推奨した。又昨年十二月二十一日の議會の決議で、各



州の通商委員及び外國貿易委員は、ゴム、珈琲、絹糸、ポツタシユその他の原料に對し、外國が市價を縛つてゐる程度を調査することになつた。

これに對してイギリス側では、ステイヴンソン法令の發布された時の大藏卿サー・ロバート・ホルン卿は、ニウヨーク・タイムスに辯駁書を送つて、ゴム市價昂騰の根本原因は需要の激増によるもので、特にアメリカの消費増加が主因である、しかして生産制限法は多くのゴム園を九死一生の悲境から救ひ出したもので、これがなかつたならゴム市價は今日よりなほ一層高價になつたらう、更に又高いゴムを買ふのは、ひとりアメリカ人ばかりではない、イギリス人も同様であるから、アメリカ人は何等不平を訴ふべき理由はない、と論じた。

一方アメリカ・ゴム協會支配人エー・エル・ヴァイルス氏は、ホルン卿に對して正式の答辯をして曰く

一、三年前アメリカを訪問したイギリスゴム調査委員は、ゴムの最高市價は三十五セン

ト(米貨)でなければならぬと、言明したではないか

二、ステイヴンソン・スキームはゴム需要供給の自然法則を攪亂したもので、二月一日から制限法を撤廢したけれども、結局その産出量は可能的供給量よりは遙かに少量である。

そこで問題は更に紛糾して、アメリカの棉花及び小麦と、イギリスのゴムとの比較論となり、例へばオクラハム州選出議員マツキーオン氏の如きは、復讐手段として輸出棉花の市價を極度に吊上ぐべしと叫び、これに對してロンドンのデリー・ニユース紙は、最近五ヶ年間アメリカの棉花はイギリス紡績業を萎靡させる程度に迄吊上げられたではないかと駁し、又モーニング・ポスト紙も一九一九年歐洲飢饉當時、アメリカは故意に小麦植付反別の縮少を主張したではないかと論じて、ゴム價昂騰の辨護に代へてゐる。

とにかくゴム價が今日の如く高價であり、又英政府がゴム會社から徴收する超過所得税を對米債務支拂に流用するとすれば、英米の協約による戦時負債償還期間の如きは、六十



年から十年に短縮されるであらうと、豫想されてゐるから、アメリカとしては實に重大問題である。しかし前掲のフーパー卿の案の如きも、近い將來においては、容易に實行し得さうもないから、當分アメリカのゴム製造工業者は、高い原料ゴムの輸入を餘儀なくされるだらうと思はれる。

附 録 「其の三」

邦人ゴム會社の内容

馬來半島及びスマトラにある邦人ゴム會社の植付面積、採集面積及び生産可能量については、まだ完備した統計は集つてゐないが、大體左の通りである。なほ参考のため主なる會社の資本金、一株の拂込額、借入金及び前期配當等をも表示してみやう。

社 名	資本金	借入高	植付面積	採集面積	生産可能量	前期配當	一株の拂込額
	百萬元	千圓	エーカー	エーカー	千ポンド	圓	圓
熱帶産業	六、五	二〇二五	九、九一二	五、二六一	一、八一〇	二、〇	三五、〇〇

南興殖産	五、三	二四五	六、八八八	四、七四〇	一、五九〇	一、四	二五、〇〇
聯合馬來ゴム	五、〇	二四二三	三、五三九	三、〇六八	九〇〇	繰越	三〇、〇〇
ボルネオゴム	五、〇		二、一〇〇	一、四八〇	三五〇	一、〇	二〇、〇〇
南國産業	五、〇	三〇五〇	三、一七一	一、四五四	四五〇	繰越	四〇、〇〇
スマトラ興業	四、〇		二、八一四	九一七	四五〇	〇、八	二五、〇〇
馬來ゴム公司	三、〇	二〇〇	三、六七〇	二、四七五	八九〇	二、〇	{五〇、〇〇 一五、〇〇〇
南亞公司	三、〇		七、六九三	四、四九九	一、七三〇	三、〇	{五〇、〇〇 一二、五〇〇
南洋ゴム	二、〇	三三三	四、五九三	二、九五〇	一、一四〇	二、五	五〇、〇〇
南洋ゴム拓殖	二、〇		一、八九一	五一八	三二五	一、二	二二、五〇
ジョホールゴム	二、〇	一七〇	一、七四〇	一、六八〇	五三九	一、二	{五〇、〇〇 二五、〇〇〇
スマトラゴム拓殖	二、〇	五二一	三、七三六	一、三八七	三八〇	一、二	三三、〇〇
第一合同ゴム	一、五		三、一一八	一、二〇〇	三六〇	一、〇	二五、〇〇



社名	資本金	借入金	植付面積	採集面積	生産可能量	前期配當	一株の拂込額
日新ゴム	百萬元 一、二	千圓 三〇〇	エーカー 一、六五〇	エーカー 一、〇八五	千ポンド 三五〇	圓 〇、八	五〇、〇〇
大和ゴム栽培	一、〇	四二	九〇〇	二八六	一二〇	一、〇	一七、五〇

【備考】 熱帯産業株は二月廿六日から長期取引市場に上場されることになり、三月一日七圓五十錢の拂込徴收の筈。

### 附 録 【其の四】

## 蘭領拓殖銀行の制度

南洋における栽培業に對して、比較的妥當かつ適應せる金融機關の制度の一例として、次に蘭領印度における拓殖銀行 (Kultur Bank) を紹介して置く。

最初蘭領印度においては栽培業に對して、官營主義をとつてゐたが、民間企業の發達と共に、和蘭貿易會社と爪哇銀行は三千百萬ギルダの資本でこれが資金供給の任に當つた

が、一八六三年にロッテルダム銀行、蘭領印度貿易銀行及びロッテルダム國際信用貿易協社の三銀行が同時に設立され、つゞいてアムステルダム貿易協社並びに殖民銀行の設立を見た。しかしこれらの銀行によつてもつひに所期の目的は達せられなかつたので、その後所謂拓殖銀行なる一形式を生むに至つた。

この拓殖銀行の特色とするところは、土地又は設備を抵當として低利長期の貸付をなす外、短期資金(流動資金)の融通には所謂委託契約の形式で資金を融通し、收獲物の販賣はすべて銀行に委託することを求め、銀行はこれによつて金利と手数料を收めることとし、一八八四年には既にこれら諸銀行が以上の方法で拓殖事業に投資した金額は、五千萬ギルダを超え、その後更に一步を進めて所謂直營主義を採用し、貸付金の回収困難なる農園(主として甘蔗園)は直接にこれを管理經營することを營業上の一科目とし、豊富な資金と科學的經營によつて偉大なる成功を收めてきたのである。



既刊(裏面)

七月一日発行 第一冊  
 九月六日発行 第二冊  
 九月十一日発行 第三冊  
 九月十六日発行 第四冊  
 九月廿一日発行 第五冊  
 九月廿六日発行 第六冊  
 十月一日発行 第七冊  
 十月六日発行 第八冊  
 十月十一日発行 第九冊  
 十月十六日発行 第十冊

世界不安の現勢と  
 ヴエルサイユ條約  
 最近の露支關係  
 赤化途上の支那  
 炭坑爭議の経緯  
 英國産業界の現状  
 國際航空路の話  
 社會政策と勞働立法  
 サウエート、ロシヤ  
 フリース、フー  
 英國海軍の煩悶  
 モロッコ事件の真相  
 世界を制覇する  
 米國の海外投資  
 安全保障問題

十月廿一日発行 第十一冊  
 十月廿六日発行 第十二冊  
 十一月一日発行 第十三冊  
 十一月六日発行 第十四冊  
 十一月十一日発行 第十五冊  
 十一月十六日発行 第十六冊  
 十一月廿一日発行 第十七冊  
 十一月廿六日発行 第十八冊  
 十二月一日発行 第十九冊  
 十二月六日発行 第二十冊  
 十二月十一日発行 第二十一冊

支那關稅特別會議  
 トルストイ作  
 「戰爭と平和」の一斷篇  
 風雲支那に復た動く  
 世界の石油戰  
 英國と米國の  
 不景氣切り抜け策  
 戰爭か平和か  
 秘境アフガニスタン  
 チムメルマン電報事件  
 岐路に立てる獨逸  
 今日の勞農ロシヤ  
 時局の底を流れる  
 支那思想界の三潮



既刊 (裏面)	刊 (表)
十二月十六日発行 第二十二冊	人種問題短論五篇
十二月廿一日発行 第二十三冊	大體に於ける景氣恢復の時期 現下の不景氣に對する對策
一月一日発行 第二十四冊	支那排外劇と支那民謡
一月六日発行 第二十五冊	ロイドジョージ氏 『土地國家管理論』
一月十一日発行 第二十六冊	米國に於ける 資本主義の安定
一月十六日発行 第二十七冊	速力より實用へ 大正十四年の航空界
一月廿一日発行 第二十八冊	靈交術の正體
一月廿六日発行 第二十九冊	第五十一議會に臨む
二月一日発行 第三十冊	各政黨の新陣容
二月六日発行 第三十一冊	ドーズ案實施の一年 一人にして五大臣兼攝の 獨裁首相ムツソリニ

近刊豫告	
二月十一日発行 第三十二冊	印度政情の變遷
二月十六日発行 第三十三冊	露國の對利權態度と ソウエイト通商機關
二月廿一日発行 第三十四冊	佛獨經濟同盟
二月廿六日発行 第三十五冊	巨人アジアの目覺め
三月一日発行 第三十六冊	財政難のフランス
三月六日発行 第三十七冊	米國の外交政策
三月十一日発行 第三十八冊	國際労働運動の二大潮流
三月十六日発行 第三十九冊	國際的商品原料ゴム
三月廿一日発行 第四十冊	國際聯盟理事會擴張問題

▲本社パンフレット通信綴込み表級  
三箇月分綴込用、一個送料共金卅錢(内地殖  
民地共)

規定

- 一、**ジャパン邦文パンフレット通信**は主として海外諸國の政治、經濟、産業、科學、思潮、文藝その他凡ゆる方面の新事情、新知識を反譯し或は解説し又時に内外の重要問題に關し専門大家の權威ある研究を紹介し、大體一冊一題の標準です。
- 二、本「パンフレット通信」は毎月六回(一の日の六の日)發行、毎冊二十頁乃至四十頁、なほ隨時臨時號を刊行致します。
- 三、本「パンフレット通信」は會員のみに頒布するもので分冊販賣を致しません。
- 四、會費は一ヶ月金貳圓、半ヶ年金拾壹圓、一ヶ年金貳拾圓です、拂込みは總て前金に願ひます。
- 五、入會申込は本通信部へ直接でも又**ジャパンタイムス社支局**、取次所いづれなりとも御便宜に願ひますが、申込書には職業、住所、御姓名を明記され捺印を願ひます、振替貯金用紙を御利用下されば猶結構です。
- 六、本會宛の御照會は返信用郵券を封入して下さい。

大正十五年三月十四日印刷 (會組)  
大正十五年三月十六日發行 (員織)

ジャパン邦文パンフレット通信

編輯兼發行人 **不破 磋 磨 太**  
東京市麹町區内幸町一丁目五番地

印刷人 **北 村 東 一**  
東京市麹町區内幸町一丁目五番地

印刷所 **ジャパン・タイムス社印刷部**  
東京市麹町區内幸町一丁目五番地

發行所 **ジャパン邦文パンフレット通信部**  
東京市麹町區内幸町一丁目五番地  
電話銀座三二六一番 振替東京七二八八〇番

會費一ヶ月金二圓 毎月六回發行



既刊 (巻目)	内容
第二十二冊	人類問題短論 五篇
第二十三冊	大體に於ける景氣恢復の時期 現下の不景氣に對する對策
第二十四冊	支那排外劇と支那民謡
第二十五冊	ロイドジョージ氏 「土地國家管理論」
第二十六冊	米國に於ける 資本主義の安定
第二十七冊	速力より實用へ 大正十四年の航空界
第二十八冊	靈交術の正體
第二十九冊	第五十一議會に臨む
第三十冊	各政黨の新陣容
第三十一冊	ドーズ案實施の一年 一人にして五大臣兼攝の 獨裁首相ムツソリニ

近刊豫告	内容
第三十二冊	印度政情の變遷
第三十三冊	露國の對利權態度と ソウエイト通商機關
第三十四冊	佛獨經濟同盟
第三十五冊	巨人アジアの目覺め
第三十六冊	財政難のフランス
第三十七冊	米國の外交政策
第三十八冊	國際勞働運動の二大潮流
第三十九冊	國際的商品原料ゴム
第四十冊	國際聯盟理事會擴張問題

規定

- 一、**「ジャパン邦文パンフレット通信」**は主として海外諸國の政治、經濟、産業、科學、思潮、文藝その他凡ゆる方面の新事情、新知識を反譯し或は解説し又時に内外の重要問題に關し専門大家の權威ある研究を紹介し、大體一冊一題の標準です。
- 二、本「パンフレット通信」は毎月六回（一の日の六日）發行、每冊二十頁乃至四十頁、なほ隨時臨時號を刊行致します。
- 三、本「パンフレット通信」は會員のみに頒布するもので分冊販賣を致しません。
- 四、會費は一ヶ月金貳圓、半ヶ年金拾壹圓、一ヶ年金貳拾圓です、拂込みは總て前金に願ひます。
- 五、入會申込は本通信部へ直接でも又**「ジャパンタイムス」**社支局、取次所いづれなりとも御便宜に願ひますが、申込書には職業、住所、御姓名を明記され捺印を願ひます、振替貯金用紙を御利用下されば猶結構です。
- 六、本會宛の御照會は返信用郵券を封入して下さい。

大正十五年三月十四日印刷  
大正十五年三月十六日發行

(組員會)

**ジャパニ 邦文パンフレット通信**

編輯兼發行人 **不破 瑛 磨 太**  
東京市麴町區内幸町一丁目五番地

印刷人 **北 村 東 一**  
東京市麴町區内幸町一丁目五番地

印刷所 **ジャパン・タイムス社印刷部**  
東京市麴町區内幸町一丁目五番地

發行所 **ジャパニ 邦文パンフレット通信部**  
東京市麴町區内幸町一丁目五番地  
電話銀座三二六一番 振替東京七二八八〇番

會費一ヶ月金二圓 毎月六回發行

▲本社パンフレット通信級込み表級  
三箇月分級込用、一個送料共金卅錢(内地版)

營業部より



終